

岩手県立大学盛岡短期大学部 令和5年度の主要な取組実績

分野	計画の概要	実績の概要
教育分野	学部・研究科等と教学ＩＲセンターとの協働によるアセスメント・ポリシーの運用	・ 教学ＩＲセンターから提供された「授業に関する学生調査」の結果を有効活用しながら、アセスメント・ポリシーに基づいた点検・評価を実施し、その結果を学外 Web サイトに公表した。 ・ アセスメント・ポリシーの評価方法を検討し、必要な改善を行った。
教育分野	志願者動向の評価を踏まえた選抜制度及び志願者確保に係る改善の検討・着手及び継続的な高大連携事業の実施	・ 入学者選抜の志願動向、入試方法、出願手続、運営体制などについて、国や県の公表資料、本学の統計資料等に基づき点検・評価し、今後の入学者選抜の改善に向けた検討に用いる基礎資料を作成し、全学で共有した。 ・ 高大連携事業について、令和5年度新規事業「探究活動・課題研究コンクール」のほか、出張講義等の各種高大連携事業を実施した。
教育分野	特別な支援を要する学生に対する適切な合理的配慮の提供及び支援体制の充実	・ 障がいのある学生の合理的配慮等に係る調整・相談を実施した。
教育分野	L G B T等に対する相談支援の実施及びガイドライン策定の検討	・ 「岩手県立大学における多様な性のあり方を尊重するためのガイドライン」骨子案策定のためのワーキンググループを開催した。 ・ 対応者の相談支援に係る技術の向上のため、各種学会や研修への参加、他大学の先行事例の調査等を実施した。
研究及び地域・国際貢献分野	研究活動に関する環境や条件の整備に向けた方針の検討	全教員を対象としたヒアリングにより研究シーズや研究活動上の課題を把握した上で、「研究推進委員会」の設置を決定した。
研究及び地域・国際貢献分野	研究活動の信頼性を高める安全保障輸出管理の運用	安全保障輸出管理に関する円滑な制度運用を図るため、実施要領等に基づくフローチャートの作成や経済産業省安全保障貿易管理自主管理促進アドバイザーを講師とする説明会を開催した。
研究及び地域・国際貢献分野	国際交流のあり方や推進体制の強化に係る戦略の策定	国際交流戦略を策定するとともに、外国人留学生等の受入れ、外国の大学との教育及び研究に係る交流その他の国際交流事業の円滑な実施を支援する国際交流推進室を設置し、支援窓口としてグローバルセンターを開設した。
研究及び地域・国際貢献分野	防災復興支援センター（令和5年4月設置）における調査研究、人材育成及びボランティア活動支援の推進	地域防災力の向上や災害マネジメントサイクルのモデル作成、震災ツーリズム・伝承活動などに関する研究調査、防災士や学生災害ボランティアなどの人材育成に取り組んだ。

研究及び地域・国際貢献分野 法人経営分野	大学の社会的責任の追求を目指した、大学周辺の集積企業との連携による研究や人材育成の検討等についての特定課題対応準備室における取組	特定課題対応準備室によるワーキンググループの検討結果を踏まえ、本学に隣接する滝沢市 I P U イノベーションセンター・パークへの企業集積効果を活用し、集積企業との連携による事業の共創や人材育成等の取組を進めるため、各学部教員、集積企業、滝沢市を構成員とする企業学群連絡会議を設置し、推進体制を整備するとともに、今後の具体的な取組の展開に向け、企業学群キックオフ講演会や実務者協議を実施した。
法人経営分野	内部質保証の取組推進に向けた、認証評価（令和4年度受審）の結果を踏まえた改善策の検討・着手	・ 認証評価の結果、改善課題として指摘された事項について、改善に向けた取組を進め、その実績を取りまとめて大学評価委員会に報告した。 ・ 改善課題に係る報告書の提出及び次期受審に向けたスケジュールを策定の上、今後取り組むべき論点を整理し、あわせて大学評価委員会に報告した。
法人経営分野	広報戦略の策定、タグラインの制作及びウェブアクセシビリティ方針の策定	・ 広報方針を基に、広報委員会及び広報戦略等検討専門会議において、本学の強み・本学らしさを明らかにしブランドコンセプト（広報戦略の方向性）を作成した上で、広報戦略を策定した。 ・ タグライン「地域に未来に多様なアーチを」を制作・発表した。 ・ 第四期中期計画期間における本学 Web サイトの刷新に向け、「ウェブアクセシビリティ方針策定等ワーキンググループ」を設置して検討を行い、ウェブアクセシビリティ方針を策定した。 また、他団体 Web サイトの調査や、本学 Web サイトの利用者アンケートを実施するとともに、情報分類及びサイト構造設計改善方針について検討や情報の整理を行った。
法人経営分野	社会や環境の変化に対応した良質な教育研究環境の整備やカーボン・ニュートラルへの対応等の推進に向けた滝沢キャンパス再生計画（仮称）の策定	本学が今後においても高等教育機関としての魅力の向上や多様化する社会的要請に対応していくため、優先度、緊急度を考慮して、「滝沢キャンパス等再生ビジョン（ver. 1）」を策定した。

[その他の取組]

計画の概要	実績の概要
単位の実質化を図る取り組みについて検討する。	1 C A P 制度について 履修登録単位数の上限の設定に向けて、以下の取組を実施した。 ・ C A P 制度に関する F D セミナー（話題提供、他学部参加者を含めたディスカッション）を開催し、C A P 制度への学部内理解促進を図った。 ・ 他学部の導入状況調査、他学部での導入後のヒアリング、本学部学生の近年の履修状況調査、在学生および卒業生に対するアンケートを実施した。調査結果については学部内教員に基礎資料として共有した。

	2 学修成果の可視化について 教学 I R センターとの連携手法を検討した。
より深い多文化理解、国際感覚の涵養を意識した新たなカリキュラムについて検討する。 また、外国語科目について、自治体や地域の国際交流団体等と協力しながら短大独自のカリキュラムの構築を図る。	・ 国際文化学科において、複数回の臨時学科会議（カリキュラム検討会議）で議論を重ね、令和 6 年度から、基盤教養科目の科目名及び内容の刷新、第 2 外国語に係る教育プログラムの充実（インドネシア語の新設、応用科目のⅢ・Ⅳの年次進行による開講）と必修化、専門科目の一部廃止と新設等、多文化を理解する力とコミュニケーション能力、及び国際感覚を涵養する教育課程を編成した。 ・ 「話してみよう韓国語」青森大会「一般スキット部門」において、学生 2 名が最優秀賞を受賞した。 ・ 岩手県国際交流協会の事業（2023 ワン・ワールド・フェスタ in いわて、ちゃっとランド・留学体験座談会、災害時多言語サポート基礎研修、盛岡市・滝沢市の国際交流イベント等）に参加した。